

「丸叶むらた」大切な人に贈り、手向けたい逸品

祈りに添える香と灯り

撮影／鍋島徳恭 スタイリング／横瀬多美保 取材・文／清水井朋子

亡き人进行い、線香やろうそくを供えて手を合わせる。

この国で受け継がれてきた美しい習慣は、現代の私たちの中にも息づいています。

創業から三百余年の歴史を誇る「丸叶むらた」が、

二二世紀のライフスタイルに沿った、線香やろうそくのある暮らしを提案します。

贈る

遙かインドで生まれた絹地が放つ
白檀の香りを、贈り物に

香木の白檀の葉を食べて成長するムガ蚕の繭から紡がれる貴重な絹地「ムガシルク」から立ち上る香りを、線香で表現。白檀の香りが、東と西の心や文化を結んだシルクロードの悠久のロマンを思わせます。緑色の線香と、少し香りの強い金色の線香を詰め合わせた桐箱は、大切なかたのご命日や新盆の贈り物に最適です。線香「シルクロード 絹の道」(桐箱入り、グリーン約30²×8束、ゴールド約15²×2束)5000円／丸叶むらた 風呂敷(正絹縮緬ハケ染 三段ぼかし)1万2000円／むす美

亡き人を弔い、追慕する。

その思いはすべての人類に共通した

自然な心の在り方ではないでしょうか。

一説によれば、今から約二〇万年前に出現した

ネアンデルタール人は、

死者を埋葬し、花を手向けていたといわれますし、

日本でも縄文時代の遺跡から

すでに人々が死者を祀っていたことがうかがえます。

亡き人に香を手向け、祈りを捧げる習慣も、

古くから洋の東西も宗教も超えて、

世界の各地で受け継がれてきたもの。

伽羅や白檀、沈香などの稀少な香木を原料とする線香は

祈りに欠かせない品であり、

供養とともに、空間を浄化し、

祈る人の心を静める効果もあると考えられてきました。

そして、ろうそくの灯りもまた、

ただ単に闇を照らすだけではなく

♪灯明として神仏に供え、

無明を照らす智慧の光とされてきたのです。

目を閉じ、手を合わせ、今は亡き大切な人に

思いを馳せて、

心の中で語りかけるひととき、

香と灯りが、鎮魂の祈りを届け

私たちを心豊かにしてくれることでしょう。

手向ける

洋のインテリア空間で 香と灯りを現代風に手向ける

リビングの一角に思い出の品を飾り線香やろうそくを供えれば、いつでも故人を身近に感じることができます。
“凜楽”のろうそく(ブルー)は、海藻成分の入った爽やかな潮の香り。線香“シルクロード 絹の道”(桐箱のほか、紙箱入り、グリーン約85分、ゴールド約55分)1500円
ろうそく(黄緑色)“シルクロード 絹の道”(36本、燃焼時間約15分)800円 “凜楽”(56本、燃焼時間約16分)500円
すべて丸叶むらた ガラス器/ともにスタイリスト私物



現代の暮らしに沿った 新感覚の線香、ろうそくを 提案する「丸叶むらた」



桜葉エキスの香が漂う「櫻人」シリーズ

日本人にとって「心の花」ともいべき桜の香りを季節を問わず楽しめる線香とろうそく。花を供えるような気持ちで、優しく華やかな香りを手向けて。線香「櫻人」〈桐箱入り、約44g×6箱〉3000円 ろうそく「櫻人」〈56本、燃焼時間約20分〉500円／ともに丸叶むらた

江戸時代、中山道の宿場町として栄えていた武蔵国・桶川宿。「丸叶むらた」は宝永五（一七〇八）年、この地に、よろず屋「丸叶」として創業しました。加賀前田家をはじめ参勤交代の大名の本陣でもあった桶川で、旅人や地域の人々の暮らしを支えてきた「丸叶」。昭和五十六年に九代目として村田五郎氏が代表取締役就任するにあたり、改めて、慶事や仏事を通して人と人をつなぎ、心豊かな暮らしを届けることを事業の柱に据え、現代のライフスタイルに沿った結納品、線香、ろうそく、仏具、ギフト品などを提案しています。

二一世紀の住宅事情では、和室や仏壇がどの家にも必ずあるわけではありません。しかし、どんなに生活環境が変わろうとも、亡き人や先祖を思う気持ちは、いつの時代も同じ。「丸叶むらた」では、洋の空間でも使いやすい新しい香りや、モダンなパッケージの開発に積極的に取り組んでいます。線香と同じ香りのろうそくをシリーズで展開しているのも、「丸叶むらた」の取り組みの一つ。西欧のアロマキャンドルのように色と香りのついたろうそくを灯すことは、

「ありがとう」の思いを 香や灯りに込めて

季節の花と「ありがとう」の文字が描かれたろうそくと、スティック状の線香は海外のかたへのギフトにも喜ばれそう。ろうそく「沢山の有りが灯ろうそく」〈36本、燃焼時間約15分〉800円 線香「沢山の有りが灯香」〈24本、燃焼時間約30分〉1200円／ともに丸叶むらた

新しい鎮魂や供養のかたちとして、注目を集めています。故人を思い香りを吟味した贈り物は、何よりの供養になることでしょう。

この夏、戦後七〇年を迎える日本。目まぐるしく変化する時代に対応しながらも、変わることにない心の豊かさや物語性を追求して、「丸叶むらた」の挑戦はこれからも続きます。



大正13(1924)年の店舗。地域の人々の日々の暮らしを支えていた。



大切なかたに贈りたい ゆかしい香り

曹洞宗の大本山、總持寺で用いられている「寶珠香」は、ベトナム産シャム沈香をふんだんに使用し、漢薬を入れずに練り上げ熟成させた気品のある香り。線香「寶珠香」〈約42g〉4000円 ろうそく「シルクロード 絹の道」〈36本、燃焼時間約15分〉800円／ともに丸叶むらた

